



叙

天地の精寢^{コロビチ}一^チ夜食^{マシヨク}此^カあり^ナあり^ナ

萬物^{マンブツ}と産落^{ウミヲト}せり^ナ一^ナ方物種^{クナシ}のあり^ナ

放^{シテタマ}下^{タマ}とば^ナ一^ナ水^{ミヅ}たの^ナけ^ナ往^ム古^{カシタレ}誰^ナる^ナ

其^シの^ナと^ナ相^{アヒ}と^ナ吉野^{ヨシノ}と^ナ山^{ヤマ}の^ナ傾^{ケイ}

城^{シヤク}の^ナ積^{タチ}の^ナ種^{タネ}も^ナ其^シの^ナ發^{ハツ}所^{トコロ}ハ^ナ何^{ナニ}も^ナあり^ナ予^ヨ

夢^{ユメ}一^ナ富士^{フジ}宝^{ホウ}永^{エイ}と^ナ立^ツ産^{ウミ}也^{イタ}一^ナ

瓜^{ウリ}の^ナ蔓^{ツル}也^ナ加^カ子^コが^ナけ^ナ成^ナる^ナ存^{タカ}る^ナと^ナ立^ツ産^{ウミ}也^{イタ}一^ナ

頓トミの夢マクのあろと種タネと一ワ衆シ生モの流リ
 と蒔マク素ソと木キ竹タケの誤アヤマリ阿アれを其ソノ罪ツミと
 阿アげく鳥カラスがほららるる云クモ爾ニ

天明六の少シし
 作者 京傳



足立郡 附 奉田天窓の報煙爰八同方の重次務羯羅童子
 三河島御不動記 為結縁之不動尊略縁記
 并り結子の振と駿河乃富士より廣分又、制多加童子

指面草目録

大 瓜うりの蔓つる子こ茄か子この珍物ちんぶつ子こ増ぞうのる遠

科しやう戸この風かぜ子こたぬされく神かみもつらうそ子こね事こと終はら
 妙たね智ち力りきの以も麻あ相あハ一いっ炊ひの羨ゆめの世よの中なか
 糸物いとものの中なか小こ鳥とりとある梅うめハもつらふ

中 親子おやこの縁えん井戸いどと深ふかい魚屋いさやの糸いと碗わん

商人あしんの齒は子こ衣え着きせぬ親父おやの異い見み
 小彦こひこを女め子こ先陣せんじんとやうむせこの軍いくさ法ほう
 廣ひろくく狭せまいを刃屋やいば七しち舌した清きよがよの好この裁きり
 糸入いといれの代しろ子こ雅みやびと織物オリモノハ名物なぶつ 裁きり

神の影向はく是と合掌しておいさつ志をば太神安
も三拜志をひ柏を二つうつて文のもらひ踏ひ十にから踏ひ祝
して宜今日おしごのつたに外のすふても多く去神在月日の
内崎の丈社小八重立出雲八重垣約込の久を清めぬ八百を
の神平假名で起請ふとる神達をのうに余舎して中
合せし近守氏子どもこの外艶氣ふる神もゆるさぬ
縁を踏ひ末ととげざる其時縁を踏ふの神えがうめい
し、ナア、おどろと其うふふお踏ふる縁切の祈禱のと又し
神とろー凡夫蓋小神もその政をふまがとてかぞへし

付てハ世古より中子と云ふ神の支配と佛の支配とをさだ
まはせし、くハ神も又江の流を踏ふ者が二つ、報とうらはま
つことのぬくうい、さまがぬる神慮安かきまをう
は以後ハ彼中子のすハ佛の支配を定とく世するハ孕とせり
ふ、佛系れば世身内談い、度輪のうさうらる内耳と
振立ててここーめせと申さる程内木の神祀おせ
の通し仲間へ中遠し、以後ハ觀する、交り子胤と授け
る、かみむを疑ふふかれと早合張る吞込はそれさへ
は、やうちらさるれを外にやする由も、う、そのと、おハ

弘誓言原如海の利益を以てとらるるはくひとまらぬとて
ついでさうさう神はらぐせむひる、親世まら子胤の大事とて
ま合まらさひ我世の中おらん限りかち誓言とてめらひ
標芽が原の持艾の系よ名とて記し丸薬の如く酒中花の
如く嬰粟人形の如く志まらさう箱お入を存性と付
てて願とかかる者小はそれくの子胤と授けらひかば皆人
の利益とてさう或時親音かの節とて花み蒲団柏餅と
て登ら候まらひか候がてまらさうとてやまらさう箱と
ひらくさうへさうはびざんや子胤は皆ひとめおぞまらる
るいゝまらさうたまとおばらりれども今さうせんくさく
其のち願ふ者小はさうさう次授けらひかば世の中の子胤
大らまらさうとてまらるる

系物の中小鳥梅ハ氏士

螺螺負螟蛉置於窠中教誨云以善似我保養七日而
變及成己子云々
と後乃て貫之も商人の美服者さうとてお相慮せぬさ
喻し高世ハ慮る方の公遣程度棧の廣袖仕立もぞと
そげと所と好らひ町人の息子がつて雲と好ら義と

一、後ハ賢州と奉罪あつて流までハ大納の八五郎と春ハ
 全く子安親も子孫とて遠て授けし一也年一々一室子
 全吹町子全多を海ありとて有徳本面賢屋有る一子と海三郎
 とてかの子亂の武士とて遠く幼より武藝と好五歳の戯ふも
 魁車と引て仲遠と追ふるとは七歳の遊ひハ行るまゝ
 かつく仇と本子騎かんとと思ふ十六歳まゝ元後してまゝ
 の京橋大野老人が門方とあり、劍術射術餘長刀、その場
 であるとせめ家の隅で、鉄砲の秘言古平生も武士行義も才と
 かめ、洗湯へりふも一獲とはふささ今ハ商とてさまして是と
 もびるふのこをりり、親海ありとあり、海三郎と近づけ
 て中ハ生兵法大疔の元と、其方が、知り取ハ、年々まい
 益の多と有ると今日後ハ急度止て商賣とんを極まい
 せと、きびしく見見して奥へ入ハ、海三郎と見送る代
 呼て今の己が居探と見た日、ごらごらの親い親父ふれハ、
 義のよと煙管ても振とケ、いよのよ、つら、所と、たんと才
 とひ、秘れ、け、か、小、三、分の強、つら、て、親父方ハ、六、分の弱、
 是が下邳の地、橋で太公が子房、つら、へ、虎の巻の中、一、
 退才と云秘り、わ、穴と見、秘り、ん、を、秘、ハ、劍術者とハ



女中のふり

いそれぬと汗多と流して是見えたる親の心あつぬ火乃
つきたけの的かり矢猛ん無分別の旗隊は是之なる
或時ふと思ひる我衣藝つらぬ一瀬とれど未水と知ぬ
む今もそ水練とんかえと係よみと借大川へのり山
水了秘吉と見物して居たりる折首向うも猪の牙の
みものうち子くいそせある西整仲間の息子表徳と全公
と云男是かの子壘のる遠しわかたぬ親父も似もつぞ親
小似ぬ子ハ鬼の首もよ余の洗濯子才がらつて頃日ハ吉
原専富士屋の東野と云全盛の女郎おどろく才代ハ銀

煙管の筒方とも小へるすハしとぞんハお先まつくろふれど
登遊びは仕あるつともと連がるはしく思ふ折首海三郎が
舟と見付魚くかてくみ兼徳と知く居るおれど一ハ
一真あるんと長く己が宗方へ舟川へ一而小進と連立
中の町松田屋幼二が店へありりハ魚て釣米と見へる早
ゆり東野ハ茶屋の床机小腰をばふ待た徳一と云い
くぐん子いそゆる風情しつんや一た中ハ忠教とぶくこ
ハ福満の燈子澄々梅木のかほし梓結と一箱結
よ拙結とそ思が似合子時田とハちとあつてさあ晒着

うち。海三郎が照く居る子ん付さ。人子先女度所あま
近付子と東野と合れどこの禱の禊とふとして是は
きく居る。初ては内意よの某に金多海と申者以後は
此見知るを下よと申の町の店先と申。靴紐の時代も申
ぬ換撥子先と顔成をよはめく居る。新造糸が一度小
吹ゆせむ。茶屋の女房が嘆む。ひふくろめく火鉢とか。あ
く盃茶と申。中子おとせむ。素と申。進か。海と。か。あ
傾玉の地子遊ぶ。士のま。金さ。あ。と。お。と。見。く
う。け。け。申の付合。思。在。浮。入。一。あ。と。溢。さ。う。う。た
と。よ。く。豆。店。引。く。申。神。話。の。と。う。く。有。時。合。大。門。と。申。い。境
次。切。落。が。能。る。や。一。本。人。家。成。社。切。く。よ。妻。と。獨。懸。取
序。が。う。観。る。へ。糸。宿。一。く。暫。日。あ。茶。店。子。体。日。塔。の。才
小。着。結。子。の。御。の。表。門。は。映。一。く。愈。赤。く。せ。つ。さ。る。の。因。兩
皇。地。子。脊。高。崎。の。人。物。成。画。不。似。あ。る。銀。杏。の。葉。が。飛。で。揚。枝
を。お。い。く。か。鞆。鞆。子。挿。挿。ど。う。の。一。鶏。音。深。さ。樓。の。洞。小
眠。子。旭。る。ひ。ま。や。ん。め。く。く。杖。子。駁。る。く。三。社。堂。の。神。樂。は
て。ん。て。い。は。く。は。つ。さ。く。舞。も。樂。を。よ。い。て。あ。や。と。見。入。源。あ。が
獨。樂。三。返。返。ら。く。烟。草。小。一。化。助。が。あ。茶。と。う。い。天。子。至。て

筑の離と己のくせで鯉が舌地子躑々市が氣神るハ
堂跡迄とと引く海り大天宮の尼二十軒の仕舞と子作
丁子焼くの高人傘と帖を徒足赤り足成酒子日
糸打止め下向群集乃其中より先と掛く海りせ
ふも大まの真と見へ打物長柄茶每當程の舞
夕紅の色と増へ散散の糸あの中ハ誰かか菊小
玉惑せる綿帽子群衆踏の如く立並る真女中
糸あとりさせひびくばさそくお慰み表門まくち
ひらふ遊やと履成ふとせむ中より羽衣のふハ十と

かどくくわ七つぐらも外へ中へ姫君村雲時一月眉か
くや姫と鶯黄と偶衣通姫と逃ぬ中頼政と菖蒲多仲の
巴山吹義経乃静義貞の白面内侍といふ中も是程ハ有るを
蜻首蜂腰出の月花は着る容貌自比女といふハ寒目
く目くさるものさ美質の海三郎ちはくぐ思ひるハ適生難ん
人界へ生れまがう素町人の情し生れ一生を朽果あとの口惜く姫君
の容白子衣好のんく泄向跡献をいふぞ一著取度く思
おもくは持ある茶碗代原をそれ糸くうん付春さりの煙爰
くくくせめくくく見送くくく海り

中 親子の縁事并戸を深い奥茶碗

昔昔小云祝代別我物昔小云の後昔の比極極の鼻を唱

所ハ西国柳指三つ子以産も母名の東隣小を刃次を七

六清と云母名は了了親七き濁ハ中郷迄の撥夫博か

三十二文二十四文の沼代後慶積も母名と云め爺と波母小

ハつゝ山か川の高重と云る母今今の七兵清茶

人の子胤と云遠く十又六歳と云茶度小志一深く三十

小一々細茶のま前利休宗旦がま癖と覚へ今二十小

一々彼世中耳もま彼彼三々明友のまもま

い母名が茶付けありれ七兵清がま茶と試んと一席と

母りりか約束くを改屋へまをりれを極先子名産と

ま煙盆もどや一有るまのく是へと女房の挨拶する

小河岸より心も前根も二艘仕をく有るま是ハ舟く

茶と云るま是へありせぐ小い極先を待合の目もま面を

と思ふくち舟中く全盤と知らせま打棧指と長

路次と目く亭主七兵清舟と流茶茶帯と持て途ひ

時作遠むあれども道へあ松茶と一々桶ハ水茶の

茶いも称客のを公確と云ハんえふれども前根舟ハ

茶は多くて居るすふれを江戸産者の茶は極小
茶と逆を付け飛込と見へ一かどめ席ハ水機姫と
港板を取く実中一舟ハあぐぐ漕り舟の中をみれど
五分金一の字席ハ細の字と戸一は切丸の字と
ま口と定め艦と水取子取く煎火艦の隻子舟の茶谷と
急ぐ艦の形と後一戸と洞床と見く古ひある掛軸の
かゝる有と讀らぶれを御朱印九の系目竹籠の極欠
万七兵清艦と少く今日の茶子灰炮碌と用いせぬを
船中の夏故約舟の廁と遠不故と細と所へんと付

炭もほむ仕巴曹西舟の茶を煮れば馬合小んと付湯の
似うち付舟を川魚一式の令席中く揺ゆ比約形へ
舟と着實城中立と定め舟ハ大川橋の下へ着く七き清
茶帚と小縁子水と打音羽草茶と巻く檣杭と床柱
見えく踏首と云銘の花器小と茶と入濃茶の調あ小
あし口取と一重焼水注子ハ川を即茶ハ観音と名号
指渡一寸ハ宮戸川といふ細の袋ハ茶杓ハ貝先と赤く
都々といふ銘ハ濃茶茶の調あもろあしの流ハ
あし口と由く舟の竹ハ一筋と水口ハ猪牙ハ飯立子

漕^こく^く乳^ちを^をの^の舟^{ふね}横^{よこ}に^に渡^{わた}る^る水^{みづ}の^の面^{おもて}に^に高^{たか}も^もい^いふ^ふ人^{ひと}
 堤^{つゝみ}の^の上^{うへ}の^のを^を 騎^り 多^{おほ}唐^{たう}画^が小^{せう}虫^{ちゆう}一^{いつ} 西^{せい}湖^この^のみ^みく^く岸^きに^に掛^かけ
 樓^{ろう}船^{せん}の^の額^{がく}に^に王^{わう}義^ぎ之^の筆^{ひつ}意^いと^とう^うの^のを^を 鯉^{こい}の^の養^{やう}吟^{ぎん}と^とも^もい^いふ^ふ人^{ひと}
 昔^{むかし}の^のち^ちう^うん^んの^の官^{くわん}小^{せう}長^{ちやう}廣^{くわう}を^をけ^けて^ての^の解^{かい}と^と見^みえ^える^る人^{ひと}の^の言^{ことば}が
 傍^{かたわら}の^の生^{なま}真^まと^と思^{おも}ふ^ふ中^{ちゆう}田^{てん}舎^{しゃ}の^の女^{によ}井^いへ^へ紙^しと^と書^かき^きひ^ひく^く舟^{ふね}へ^へ運^いび
 土^{つち}手^ての^のを^を合^あひ^ひ射^やと^と手^て傳^{でん}へ^へ錢^{せん}と^と貫^{くわん}ふ^ふ釣^{つり}瓶^{びん}と^と本^{ほん}と
 か^かく^く言^{ことば}遊^{あそ}毎^{まい}六^{りく}河^か童^{どう}へ^へ与^よふ^ふ一^{いつ}胡^こ乳^ちと^と釣^{つり}り^りけ^け五^ご聖^{せい}靈^{りやう}の
 お^お盡^{じん}物^{ぶつ}の^の千^{せん}ら^らる^る棧^{せん}と^と一^{いつ}隣^{りん}子^しの^の骨^{ほね}と^と浸^ひせ^せい^いが^が又^{また}
 後^ご派^{はい}ハ^ハ竹^{ちやく}乳^{ちゆ}山^{さん}の^の岩^{いわ}と^と小^{せう}心^{しん}砂^さ頭^{とう}に^に印^{いん}と^と刻^きむ^む匠^{じやう}の^の遊^{あそ}ぶ
 所^{ところ}水^{みづ}底^{そこ}に^にと^と写^{うつ}す^す一^{いつ}の^の時^{とき}詠^{えい}ハ^ハそ^そぬ^ぬ隅^{ぐも}田^{でん}川^{せん}全^{ぜん}公^{こう}ハ
 舟^{ふね}と^と塹^{えん}へ^へい^いそ^そが^がせる^{せる}全^{ぜん}公^{こう}七^{しち}を^を清^{せい}が^が手^て前^{ぜん}に^に書^かき^きす^す今日^{けふ}の
 紙^し向^{むか}の^の面^{おもて}白^{しろ}と^と小^{せう}卷^{まき}舌^{した}の^の舌^{した}と^と又^{また}及^{およ}ぶ^ぶま^まう^うと^とす^す士^し 船^{せん}政^{せい}の
 今^{いま}ハ^ハ野^やを^をの^のち^ちら^らく^く大^{だい}膽^{たん}ふ^ふと^と思^{おも}ひ^ひ一^{いつ}も^も心^{しん}を^をて^てあ^あく
 今^{いま}日^{けふ}ハ^ハ折^せ角^{かく}の^の出^で入^いに^に兼^{けん}ふ^ふる^る所^{ところ}差^さと^と患^{わづら}ふ^ふる^る事^{こと}は^は皆^{みな}
 覽^{らん}見^み小^{せう}心^{しん}を^を法^{はふ}退^{たい}窟^{くつ}に^に思^{おも}ふ^ふま^まう^うとい^いふ^ふ人^{ひと}の^の言^{ことば}は^は
 見^みえ^える^る人^{ひと}の^の言^{ことば}云^いふ^ふ趣^そ向^{むか}の^の言^{ことば}入^いる^る風^{ふう}流^{りゆう}別^{べつ}一^{いつ}く^くい^い茶^{ちや}碗^{わん}ハ^ハ見^み所^{ところ}の^の言^{ことば}
 乃^{すなは}貝^{かい}土^{つち}色^{いろ}と^と云^いふ^ふ藥^{やく}の^のか^から^ら塩^{えん}梅^{ばい}ひ^ひ社^{しゃ}川^{せん}女^{によ}と^とあ^あぶ^ぶる^る事^{こと}

奥屋あつんと思へとも不艦ふがう魚屋ふれを高金小
 くあわさくもよ入免乃奥あつ珠しと器物と秤災
 此れむある程此目利の通を奥屋ふとむれが故つら
 け茶碗と子代と名号と一と又伏あつがかしお叱り
 法をさすはいつある故うけ茶碗志まるとまほく存せ
 ぶ代金五兩と中せむむろく 船に風情うく来るまの
 物了難くい川をけ舟者の株とまうく申すもと思
 込しと一人の娘子心もよ来の毒お存せし竊に相借屋
 の女児を頼し吉原へ百兩よ身とまうしと書としと

とふと一故志あつこれ不便をさうくく思へて由を
 器物小未結の執んとをしと我子あつとほ川か
 早く先方へ手を受戻んしと一と女児と娘さる
 承知致せしと共金く物と叶へくまうしと唐舟と
 顔よと方右の金さふく来しと茶碗故則子代と
 号朝夕娘となしと就志致ましと叱りしとせ八が初
 私娘ハお振の目とさうく下さるく其富士屋の東野と
 ござるや手はし同じ候持兼くおかたを金公とめて
 聞且ハ致るしと野が孝人と感しと鳥の別離あつ

かゝり歌ふ一上回の袖と縫いしりしをくく近き
舟舳みちり一衣さ長よの語り大棧へ舟が
着くはしりく一語あが候へしりく

雲のつと下かきそらぬ奴侘屋が献立

宇やいし人も月よち乃塩をまふぬ例崎のころこ
小増屋といふ料理屋の亭主四季あはれとこころハ
公家の子胤とる遠しお雲いの物母く手跡ハ流木の
流水を汲く地蔵橋の門子とあうそハ浅草の義宮女
まらるる日く国宗子眼を晒しかくはるのじりか

姫のよのころ。しの類いぐんをこころ定家家流ハ
刺さ奴りし一僕も連べ見識く糸竹のころを
ゆを早鯨を漬る際小と一言切の哥口を志め冬丸
汁の飯も子桃さ首思と三の役と打ねくき白るま
節舎とらるるみ乞巧奠のころをさるの妻物トころ
はき弱近小ハ富中其弱子娘も射のあを連珠豊国を
菊の曲豆明小銀燭と暉し先明の十夜のかく追疑の
節會小費を殿に侍女ハ扇屋の勅遣の如く五夜と深
ある振袖と若せ張付ハ松葉屋と移し藤原小葉まで

画せ其才ハ小豆大油を由名染べさし未取しあがりりる意
流少公を浦の名後意多し柿皮富堅固八幡相撲巾見物
小かこけきし多ひけ比揚浩ししき重多ふまふししるの赤野
とい増をへ呼寄りひらる日遊子仲町の羽織屋
者男愛者物揚しし尾多ふまのわふ猪口よりのおいさ
まぐりしししハ新造禿しし新目張しから鬼渡
からいししし鳥と敷しし水し列る答答
のしししし何のしし口合長ししし
持しし如若黄の蚊帳しし朝のしししし仕
寂子味もさししし男藝しし伊八ししし
仕をわししの上と誓しし儂しし普しし既し不拵
子と羨しし初會の川深と賑しし床しし目し夜
りしてんしし舞と見しし其次の大吉ハ十者今吉てしし
仲名八重大夫助三吉殺ししおのましし
ふ蝶取るしし追ひいし子園子まを七日の磯ハ長二
若次で日を嘗てしし其の二ハ照しし鶴を文曰る旨の
多元子ししししヤンヤしし体ハ尚振しし東野も笑を
合をいしし柿の愈真子へしし柄をしし四季取し

文筭と廣蓋子次一ふ小袖のせり、拵々今此家老
 由尾秘姦女様ともの侍此遊遊し、世にまはせはる
 師よ不審顔とく文筭と聞き見久をい小袖一
 東野への侍ともの文面外子袖もよきればふく唐付
 小袖も美系小袖と引返し見久は全糸を輕とら
 縫ひにりより後とよな一糸子何やんよあるもの
 縫込に未審と川解といふ一久ハ一通の書之付
 ひくこ日ん久はたのご

造化即席献立

観蓋 (一角仙人とせる麻の切子 弘法の子の御子の 弘法の名草 宿願をすまやて 血のつもと筋子のゆかに 細川さるまの一糸村 がはつけやま)

吸物 (わいの女がーまの どぢやう 味、口のくもの 味、口のくもの 吸口、口のくもの 相子)

猪口 (孫権が能余吏 そのかいこのの 目、口のくもの)

大平 (本まつたけの かなちやがとうの ぐせや)

井 (時をつくる まるいんの まるいんの)

酒一眺子 (おやまにぬ子ハ 息ころ)

糸院 (孫権が能余吏 そのかいこのの 目、口のくもの)

其外 此望治家

けいふ献立をいさふい四人誥南鏡一片とくらぐみ
 中ぶなつこ補佐ら、は、文選よ見入る輕密の訪らる



あつゝのてら

けしむる物もてこゝろあぢの遠くはひはひ集
 ある献其のりしゆの遊びの好と棟の川をりし
 迷はる誤りなりは程面白遊びは止らぬ
 しの由をりて坐すきく唄ぐはのしよびきの
 若二の鯉の小袖と一ひづりサ度よ速し釣と家の狂を長二
 ぬくぞつとあふ三度と彼の釣竿を肩に担ぐこづり
 ち極よし者はい儂に任るび玉玉のこ即しよ色男もくひ
 釣ふくはよ釣かかろほくつろふ釣ふくと夕鳥啞る
 三~~~~唄るる

①小舟のよとハ世たあまの重さう上の銀煙管

蛇ハ寸小~~~~其兼と得たの子宿るよふくと蛇
 西の窟ろく玉方を合~~~~ふ葦河伊某よの嫡子
 河川舟を乗よハ子女親書ののまやふありし
 町人の子胤とる遠しふや民家のかこくろしと時が
 せらひる小碁ぞし〜猪の牙よ家々の例をよあ身
 指をよ姉とゆふ射術よ藝をよ情をよかこくろ
 しのひ茶術よよと取る事よのしんとそし
 ち多ひりし事よやへばかこくろしよ相撲を好む

まひ抱お獲の玉鶴首方活例玉羽との一活家
への醫者志燕の柳菴活長麿子巢と喰く世のうりか
あの降夜もゆの夜も一寸先ハ鳥羽玉の聞ハ危一白和下
踏堤八町多るはう草よあせぬ逢き向繩流のともぎら
しきまらぐらふくふく山崎ふ二ま清ふあく福と
東野くけととお活子松屋内所のふきを合海く手附
三玉雨と後くまひく云々家老る由尾秘蔵女が耳へ
へけ程の放埒とい孫子言號の娘君と近ふ活仕度能
寅中一傾城遊如と受中く一ひくハ某大屋へ中祇あり
そく待中せど止まらせく福は是淋かく大屋へ中と
活居又押込め申る不病首方活柳菴ハ東野く
くこの女と活長子いふむと家老秘蔵女お次子
堅く聞えくそのそく書も申るてく福は痛くハ
と家もめいそく今まきく怪くゆ宋めとむひ一才の急
ふくゆめれくまむ住川一活居又鬼界くむむ
くくくへのふくぐ一む根川の相談も福おくく
東野が恨あふんと獨思とのべ金の烟也吞ぐも煙袋を
くくくめ片便寤くくく母君の業一あ

かゝるに余子遊くむのこゝろおまゝに聞せむ
或日屋貝も取らむとて矢一と侍女貝桶を
おせしつゝかゝるに遊くむのこゝろおまゝに聞せむ
侍女とおもひ懸とて矢一と侍女貝桶を
や貝桶のこゝろに烟巾の煙のかゝるの立のほろ
〜〜〜一片の雲もあらず未審とてかゝるに遊くむ
と〜〜と野の山門のかゝる五つのおもひ懸とて
いせも思ふに侍女貝桶のこゝろおまゝに聞せむ
〜〜〜唐門のこゝろへかゝるに遊くむのこゝろ
砂子とて時々かゝるに遊くむのこゝろおまゝに聞せむ
侍女のこゝろに遊くむのこゝろおまゝに聞せむ
〜〜〜先の文におまゝに聞せむのこゝろ
遊向ふに十餘丈の銀の橋と建はるの方と見え
別全周塔舟の格子作を猩々錦の暖帯に呉の文字
と懸せ其外瓊瑤の格子電甲の格子水晶の格子珊瑚
琥珀の張吳の馬の鞍の格子〜〜〜所々の格子
〜〜〜和莊を侍女貝桶のこゝろおまゝに聞せむ
〜〜〜遊くむのこゝろおまゝに聞せむ

向^ト多^クも一^ツん^カが^マふ^所へ^心有^ルる^心付^クく^心慮^スく^心
ありは此^ノ系^ノ入^ルの柳菴^ノ故^クち^ノ多^クの不思議^ノ後^ニも^ハ由^ルキ
三^ノ木^ノ川^ノ大^ニ神^トも^ハつ^クふ^クと^ハ驚^クき^タま^ヒど^ル一^ツ其^レ
方^ハ八^ノ宝^ノへ^ハあ^リ一^ツや^ハ同^ク久^シむ^クれ^バ私^ハも^ハ今^も不^レ審^シ
晴^ル今^も新^レ禮^定田^屋九^花と^ハ中^ノ乃^ハ具^全へ^ハ掛^ひま^の
多^ク煙^と見^せま^る系^ノを^ハな^し一^ツ宿^をゆ^く一^ツと^ハこ^の
ア^とり^とな^せし^がその^もら^ハ寤^の後^にも^ハ柳^の枝^と敷^く
十^ノ町^を又^ハ平^地へ^ハま^まと^ハ鳥^鶴の^階を^ハと^りま^はら^へつ
ひ^まい^所へ^ハ一^ツと^ハい^はば^らぐ^と夜^をも^ハ怖^おの^それ^と
ち^のり^まが^ハ何^と中^ノ所^ノと^ハこ^のま^はら^へ道^ノ乃^ハ
信^又ぐ^ハ銀^河へ^ハも^もも^もか^のの^機石^をも^ハ六^生の^物
と^ハ生^く得^えとい^ふもの^も秘^伝何^も一^ツら^ハ此^ノか^ハお^の園^と
秘^伝一^ツ地^獄へ^ハ佛^ノ入^ル江山^をも^ハい^ふ川^男亦^花系^を
亦^九と^めの^心秘^伝もの^もそ^のく^ハ肝^心の^もう^のあ^のと
亦^九の^もも^も急^かお^のま^ま幸^運傳^授は^いい^んと^懐ア^と見^え
秘^伝一^ツへ^ハ事^を道^をも^も落^し一^ツと^ハ一^ツと^ハ無^きた^らぬ^と
秘^伝一^ツと^ハ七^つる^の系^縹紗^の手^帕と^色と^糸入^とあ^の
ほ^いく^もも^も有^きもの^ハ醫^療手^ノ系^と軟^挺と

本

云号の娘君と嫌ひもひたる明尊東野うしく
の思ひつゝを毎計かく押迫めらけりも知
せしめく思名危角浮くしゝもく移む夜光と
けどわ此附の元近く奥方と近えり時言よ此
ひやうしよもくもいしハ少くみんせざるも去あり

堀の園子較急ぎ急ぎ際け約の踏

まふーくと起さけり續の音ーとぬ時海に
ひえおくくえん子到るせーと東野ハ痛き痛よ
又文のお能く後ハ終く使も無くりりも女と婿と

くも妻の此返せの程と竹甲北友も無く押迫
らけり居りやーと移むぬハ夏のせり今又
悔交れとけりーと移むぬハ夏のせり今又
く晴ぬ恨の敷く子樹野音萩鈍情無めくあさ
めくーと移むぬハ夏のせり今又
と廊く移りく憂名にんもん苦ーと便の連筒子
余るあ夜と幸ひやーと廊をぬびいど翌朝ハ秋子
たもりあなる無常の輝る土境の風園復の毎垢も狗あはれ
ほろく吹迫正諸事子時蛙も茶井以の事子翌と吊

下水道に飛びふ塔の一期夕に死る共才も朝
 聞し中田吸るかもかくらるる百姓家とて
 軒子才成借く借く息とばさきる小軒子か
 園のこもろろ一つの火燃ゆ怪の次女落もる恋の終
 いらのせま極初一廊のほも化は散る朝は紅顔有く
 夕も白を垢一重乳室く悪室素顔流貯を
 廊ぐ見ると顔の田面のそと共修子一はきき
 映く心條川娘の素小袖子筋の糸と一纏く手柄結
 の賢貴もらつたの岐子迷ひくも好むとてさぬ考の
 それーやの迷果と奪くえらるるか
 くくと云よヤアおあきるる一はいきよの百姓家とて
 人とたふ化は世とを一と義之屋の綾屋女えんや
 いふも今迷くおえらるるやうひすさるさあ女
 いづの伊がしとを影護とまーとや勒のちま
 人情を感せし罪く窶や今おの子終しを
 女郎とふひかとはとくも悲を知るま
 一互の愛情といふ昔く曲唱よと悪又名と結
 一と能くと思ひはひる好の方よんひさく

山と見くきく並ぶぼんの徳とて路柳牆花人皆可折漣

かひふのはぬおんと語る来唇ハ万石の膏よのうらる

才とくあくくや子のこちらあくらぬぬく傾城の情ハ去

季何人うせー息子初をとやういふおもしくたはむい

路くくふできかく塗柱子學を摺漆の交を夜衣し

拈云ー金蘭の契りも息の強き吹矢のぬくさるる女ハ

人ハ唯おまへの死おし思ーやんをと止くをまきく事

いひのし廊の訛ハい世の記念いよハその身子ばぬさるー

續を後妓り源切と浪物語ハ才と不便と思ひいよを

一層えの回向とあきあきと云捨く泣女ハ消矢ハ東野ハ

ゆも多くも無所疎浮佛くく唱う折柄廊くく

遊手の者牽引の言吉えよく不渡の貞物守婆の

香文仗の認てんでよと稱梅六尺持と提を合く四本持

ハうこが子目と配るる言ハ案をいよく提提

そいくと見えと東野と日んほをヤアく皆本やり

足ほきくく喚子東野ハ遊るも逃くはまお娘の

傘子顔隠し人ハ久こそ竹らぬいよも息の下を

ま吉吟人遠くハ慮くま山鳥も白踏もも尚時部

折折の女郎をいそぐふりくふいよの所を

しやうしやう何れもせんくつをにききき不三両を

しやうしやう連れりてぬきぬきしやうしやう

も小判の物さゆふやうしやうしやうの物さ吉

と拂ひのきげんきんをふさうさおまのいあふ何と

土境のほうとあふいあふいあふいあふいあふ

いやあももらぬ女郎をいそぐ人目のいせい

あのはららららららららららららららららら

年ふ二人が中へ文書の探七

一もその二両が床しやうしやうしやうしやう

あしい若狼と若く姉妹がゆきゆきゆきゆき

かめしと核是しと後しと抱付くんあふとささ

厚本紐でやつさふさふさふさふさふさふさ

いらまらららららららららららららららら

らむららららららららららららららららら

あふまを連れりて内所へもあふり

東野と貞物らららららららららららららら

嬉子や富士の根迷ひ見ざるその形諸の雄力を合せた放言
いふれども嬉子離く養を逃ドやらドといふ勢ひ跡を

幕ふく 引三重 け場の

子放の周と恵の周一寸先を見ぬ方便

穆穆父王猊猊老父其所止の父とくく大急大急
の信祿子神泥落や家うけの己の推し物とふ放
子思ふと多玉海をるを悴返す町人似合ざる夜露を
好むす夜く是見えども止む一族中お説の上艾めの
あめ初當せんと思ふも頃日八昼敷んととめくる要

氣も折傷をそとぞぬくかき心も今其海は先
皆並く醫療をもとせやあく日外浅き
大急の雄君と見初とあせし及ぬ恵の如の聊そい
白檀弓檀弓柳弓歳寄く海をるが海ひき大く
あつとびとく佛神と禱をそ外地まおくと目比信ん意ぬ
まにまにの観言へ糸指し此半も過夜しる折ふし
兼仰る家老る由尾秘氣女もあまの守り神の徳の
と禱をのしめ日く過夜しる西人半も跪普門品と禱
備し居るる時うけり夜半の比不思後や喜燈

えんどのえんかふいしをせぬくく叫まふと又もせえと

ふ所子世帳のりとらるるく一寸八分の霊像光明祿賣

としく露をむ好る此をすくやれ皆くと眞む是金

子安親吉の誤りあむと一切充生の子胤をる遠し皆方

便ありてはも天生は安者屋主の子所周其子仙人の子胤あり

唐土も暫自理を父としく舜乃堯と父としく丹条あり

是子胤のる遠むあり秦の始皇も呂不韋といふ市人の子

胤ありふもその類乃平の宗室ハ軍匠の子胤あり

小西橋津の業種系の子胤あり神披の子胤園白子任

ありて免近代小田原町の奥賣の子胤名多き儒者

とあり菓子屋の子胤將某所ありあるもあるも所を五子村の

百姓の子胤系舞妓の女形も名多し小野川を大津の儀

を何某が子胤あり借ると騎をさるるも一八町へ

浄るも長家の秘言古所へあるも其ハ皆氏士あり鬼角

その才の業を於て己が好む乃も遠く人情と志あり一箕裘

の業もさちひも方便よはるれも者難後あるべしを今を

我を通るも化る物も弁たの利方を以てあつあるくとま

どうらまよ痛き痛と海をが鬼と入替るもほるよべ

くこさ遠く出雲よく東野と海をが子娘と終と終びと
はむ東野ハ海をが妻と定むべし。海を補ハ玄号の娘と
さ川そく入輿よく我へ素五人女子娘のあり遠ひ
一放海を補ハ東野子川海をが海を補と玄号の娘と
見初ハ玄号の意と入塾をを西人幸ふあべし。必親ふ
こころはと告まびく。海厨子のしちへへを徳の親も皆
び何定の方候と志と取し退せしを見し。夢を
刀の鞘と女子とあり。秘苑女難るか。海を補と
紀を是と日一拾のる。合妙智力の

利益肝のめい。二拜四拜し。二人合ふ。拜し。口れそを
海りる。海を補の海告ま。遠むその夜を玄号の方より。刀の
意飛ひ。海を補より。寝所へ。く。又二つ乃
魂のく。海を補と玄号と。飛ひ。海を補より。本字
の。海を補と玄号と。氏。海を補と玄号と。入塾有
く。海を補と玄号と。海を補と玄号と。海を補と玄号と。入塾有
り。海を補と玄号と。海を補と玄号と。海を補と玄号と。入塾有
子。海を補と玄号と。海を補と玄号と。海を補と玄号と。入塾有
を。海を補と玄号と。海を補と玄号と。海を補と玄号と。入塾有

いへりらりたるを。芝原河の源。智を多原の。子代。も。世。見。
うけ地の根。阿。を。松。代。月。堂。乃。為。代。と。あり。枝。古。葉。今。
葉。も。一。子。代。の。子。胤。の。お。め。え。た。や。子。秋。美。歳。く。く。例。え。
と。け。シ。ヤ。ン

作者 山東京傳

校合 山東鶏告

松面押終



坪。一。武。彩。板。法。詠。亦。追。て。出来
中。山。由。求。ノ。由。許。と。り。あ。下。候

田上

江戸通油町

書林 篤屋重三郎

そ



